

御牧の郷だより

御牧ふれあいの郷づくり協議会 編集 広報部 平成31年4月 第20号

人口減少時代を迎える 北御牧地区について

～学びと自治の力でひらく新時代～



人口減少は、
待ったなしの状況です

去る3月21日(木)、サロン講演会第一弾「人口減少時代を迎える北御牧地区について～学びと自治の力でひらく新時代～」が、40名を超える住民の参加のもと開催されました。

講師は、八反田のご出身で長野県企画振興部地域振興課企画幹(3月時点*)の渡邊卓志さん。

講演で渡邊さんは「長野県総合5か年計画」をもとに「人口減少は待ったなし」、「今、真剣に取り組まなければ(今でも遅いくらい)」、「自治の力(自分たちで知り、行動していくこと)が大事」などと熱くお話ししてくださいました。*現在は長野県健康福祉部医療推進課医師確保対策室長

講演の後は、参加者が6つのグループに分かれてディスカッションを行いました。最後に各グループが話し合ったことを発表しました。どのグループも真剣にそして活発に意見が交わされたことがうかがえました。

次のページに参加された方々の感想を紹介します。



取り組むなら、今すぐ...
いや、もう遅いかもしれない
大事なのは、
自分たちで知り、
行動していくこと



北御牧の人の動き

総人口 4785人 (-16)

男 2,371人(-4) 女 2,414人(-12)

転入 40人 転出 49人

出生 2人 死亡 10人

2月28日現在 ()内は12月末対比

目次 Index

P1 サロン講演会開催される

P2・3 講演会に参加して...

P4 地域ビジョンのページ

2018年度の人口動静、リレー放談



今大事なのは、ひとりひとりが考え口に出すこと

昼間の開催にもかかわらず女性が少ない、こんな集まりは父ちゃんの担当なのか…

県庁渡邊氏のお話は切実だ。はたして2040年に長野県は存在してる？東御市は？北御牧は？協議会で用意された人口推移の資料も、恐ろしい。また、2020年には1.5人で1人の老人を支えることになるという計算も。

今大事なことは、ひとりひとりが考え口に出すこと、それを繰り返し続けていくこと。自分と自分の大切な人のために、何をすればよいかということ…
(石井 加津美 芸術むら)



グループディスカッションからの参加でしたが、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

むかし北御牧地区の皆さんが折に触れてやっていた「何も気取らない和気あいあいの雰囲気」と会話が聞けたことが何より嬉しく、「これぞ北御牧！」と、村として栄えていたころの十数年前を懐かしく思いました。

「小さい単位で何かを…」と地域で始めた味噌作りと二年参りの灯籠づくり、仲間が少しずつ増えてきました。
(廣田 美和子 島川原)

何も気取らない和気あいあいの雰囲気「これぞ北御牧！」



故郷を愛する心を育みたい

本年度本校は38名の新入生を迎えますが、児童数が年々減ってきているのが現状です。北御牧地区の人口も減ってきていると聞き、小学校でもできることがあるのではないかと参加させていただきました。講演会やワールドカフェ方式のグループディスカッションを通して、地域の方の熱い想いに触れることで、子どもたちが北御牧の良さを知り、故郷を愛する心を育むよう、さらに地域学習や体験学習を充実させていきたいと感じました。
(北御牧小学校長 浅野 真澄)



若者よ、地元に戻ってきておくれ！

美味しい空気と水、そして自然、穏やかな家庭で子育てがのびのびとできる。それが人間らしい良い生活だと思う。だから、若者よ、この地域が存続発展できるように地元に戻ってきておくれ！
(宮坂 美代子 中八重原)

(宮坂 美代子 中八重原)



サロン講演会第一弾

講演会とグループディスカッションで感じたこと、思ったこと

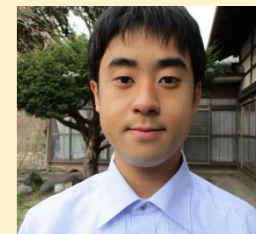
まず住民全員が現状を理解する事から始めないと。

人口減少の時代を生きていく事の課題は漠然とはわかっていても、掘り下げてなかなか考えない状況がありました。今回県職員の渡邊卓志さんのお話で、長野県の取り組み五十年計画プランや北御牧地区の現状を説明頂き、より深刻な状況が良くわかりました。万能な処方箋はなく、地域それぞれの実情に合わせて知恵を出し合っただけで対応していく事が大事だと思います。それにはまず住民全員が現状を理解する事から始めないと良い知恵も出ないと強く感じました。
(吉池 直美 切久保)



**「こんな若者も参加してくれました」
まずは現状を「知る」こと、そして思いを周りの人たちと「共有」していくこと…**

今回の講演会を知ったきっかけは、家に回ってきた回覧版でした。もともと地域問題に興味があったため、今回参加させていただきました。



講演会を通して感じたことは、「自分で動く」ということです。役所などに自分の身の周りのことをすべて任せてしまっているのか。そう思いながらも積極的に行動できないのはなぜなのか。それは、「知らない」からだだと思います。私自身、今回の講演会に参加して初めて分かったことが多くありました。まずは現状を「知る」ということ、そして自分の思いを周りの人たちに「共有」していくこと、この二つが大事だと感じました。そのためにも、今回のような会を定期的開催して欲しいと思いました。

(渡辺 大生 信大1年 下之城)



地元企業の良さを発見し子どもたちに伝えよう

多くの若者が都会に流出し、地方では人手不足、担い手不足が言われている。地方にも小さくも技術力の優れたキラリと輝く企業がたくさんある。自分の個性を生かし、考え努力することで企業も自分も成長出来る。

親たちは勉強し、地元企業の良さを発見する努力が必要だと思う。それを子供たちに繰り返し、真摯に伝えれば地元に残る人が増える。

若者の田舎離れを嘆くだけでなく、具体的な行動に移したい。住民と企業が連携し、若者が定着する環境を作りたい。
(宮坂 秀明 中八重原)

(宮坂 秀明 中八重原)

2018 北御牧の人口はどう動いたか



「10年後も10000の瞳」のスローガンを掲げて2年、北御牧の人口は今どうなっているのでしょうか。広報部が毎月市から提供してもらっている資料をもとに、昨年1年間の北御牧の人口動静をまとめてみました。

① 人口減少率は全国ワースト 50 位以内レベル

この1年間で減った人数は74人。人口減少率を計算すると約1.5%になります。この1.5%という数字、日本全体の減少率0.22%と比べると、いかに大きいかがわかります。そして、仮に「北御牧村」だったとしたら全国の自治体のワースト 50*にランクインするほどの高い減少率なのです。対策は、まさに待ったなしなのです。*「全国自治体 人口増減率ランキング2018」より。総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」に基づいたランキング。

② 原因は…自然減も社会減も

出生数と死亡数の差が自然増(減)、転入数と転出数の差が社会増(減)です。北御牧の人口減少の要因は自然減と社会減の両方にあります。

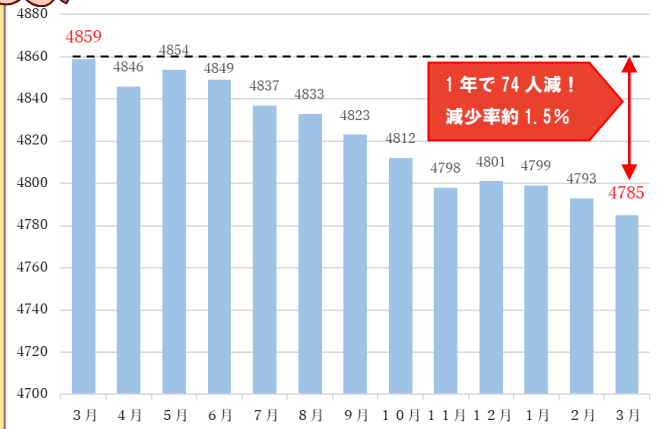
今後数年、死亡数の増加が止められない以上、人口減少に歯止めをかけるには、当たり前のことかもしれませんが、出ていく人(転出)を

減らし、帰って来たり、入ってくる人を増やす(転入)こと。そして出生数を上げること、これしかないのです。…私たちにできることは何でしょう？

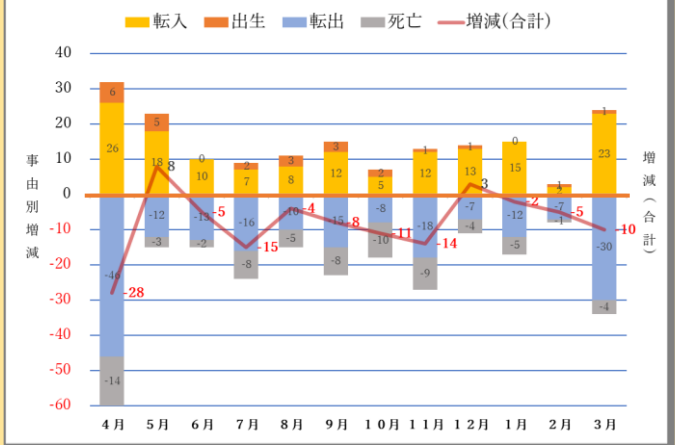
郷づくり協議会では、住民みなさんとともに考える機会を今年度たくさん作りたいと考えています。そんな時にはぜひご参加ください。



① 2018年度 北御牧の人口の変化



② 事由別増減数とその合計



③ 1年 の 合計	出生	死亡	自然減
	25	73	48
	転入	転出	社会減
	151	194	43

シリーズ 地域ビジョンに想う⑤

リレー放談

1889年4月1日下之城、島川原、布下、羽毛山、大日向、八重原村の6ヶ村が合併し「北御牧村」が誕生しました。朝廷用の馬を飼育する「御牧」の北に位置することから「北御牧」の村名になったと聞きます。誕生した北御牧村は、648戸2,819人の人口で「5,638の瞳」が輝いていました…。

…それから130年、北御牧地区の人口は、「10000の瞳」を越える時期もありましたが、まだまだ4,846人(H30年6月時点)「9,692の瞳」キラキラの輝きがあります。

H26年に「地域のことは、地域で！」の主旨から、各小学校の学区単位での協議会の立ち上げに向けた活動が始まり、H26年に「御牧ふれあいの郷づくり協議会」が設立されました。協議会も今年で6年目を迎え、青少年育成部会をはじめ「5つの部会」と一昨年誕生した「ビジョン推進部会」、それに「市民交流サロン運営委員会」が新たに加わり、それぞれに具体的な活動を行っています。(詳細は紙面の都合により割愛させていただきます。)

ビジョン推進部会では、スローガンである『10年後も10000の瞳ー人口5000人キープ』に一歩でも近づけるよう、夜な夜な集まり、知恵を出し合いながら道筋を探っているところです。

皆さんも参加してみませんか？ アイデアや知恵を投げ掛けて下さい。

ビジョン推進部会：関 益巳